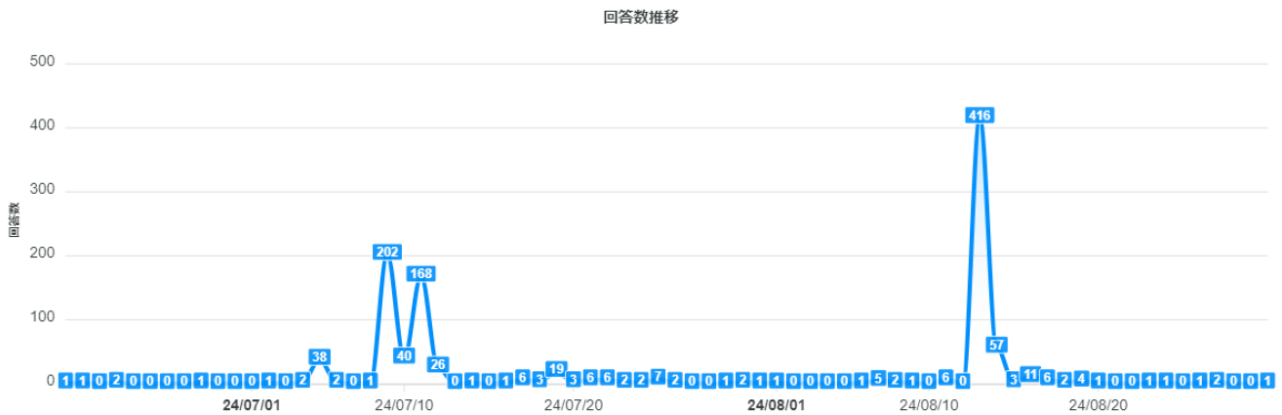


防災に関するアンケート結果

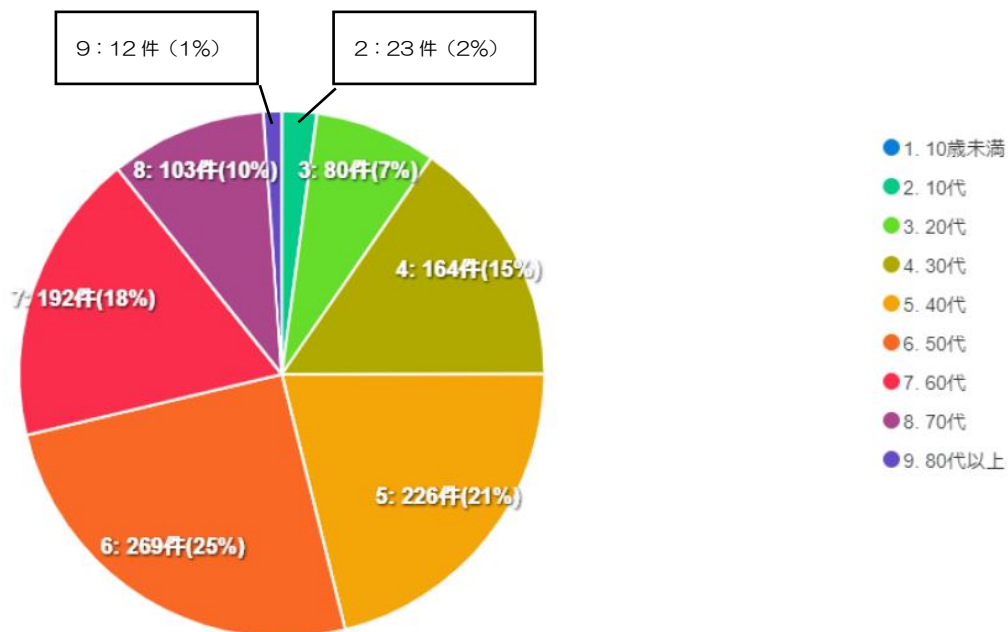
1 実施期間等

- (1) 実施期間 令和6年6月20日(木)～同年8月31日(土)
- (2) 実施方法 インターネットによる調査
- (3) 回答者 西条市民等
- (4) 回答数 1,069人
- (5) 回答推移



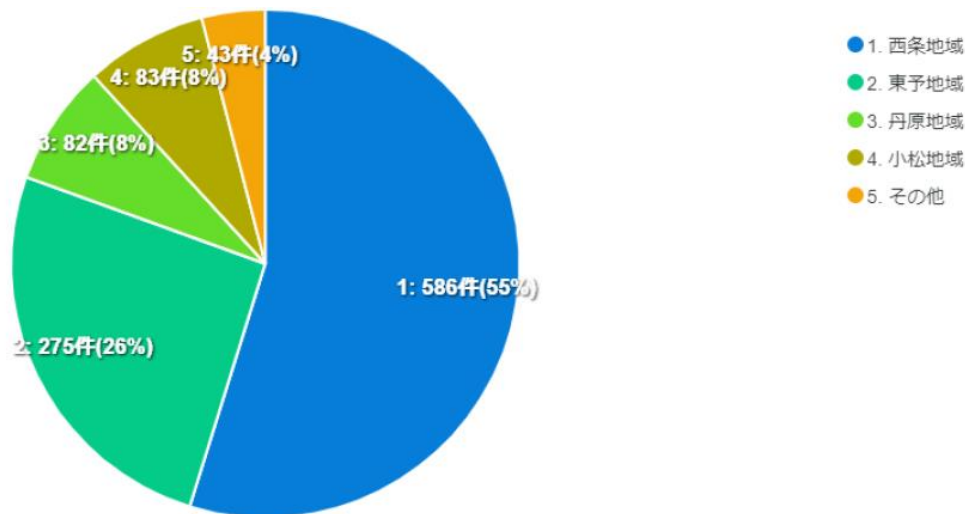
2 回答結果

Q1 あなたの年齢は



○回答が多いのは、50代(25%)、次に40代(21%)であった。
 回答が少ないのは、80代以上、次いで10代であった。
 10歳未満の回答はなかった。

Q2 お住いの地域は



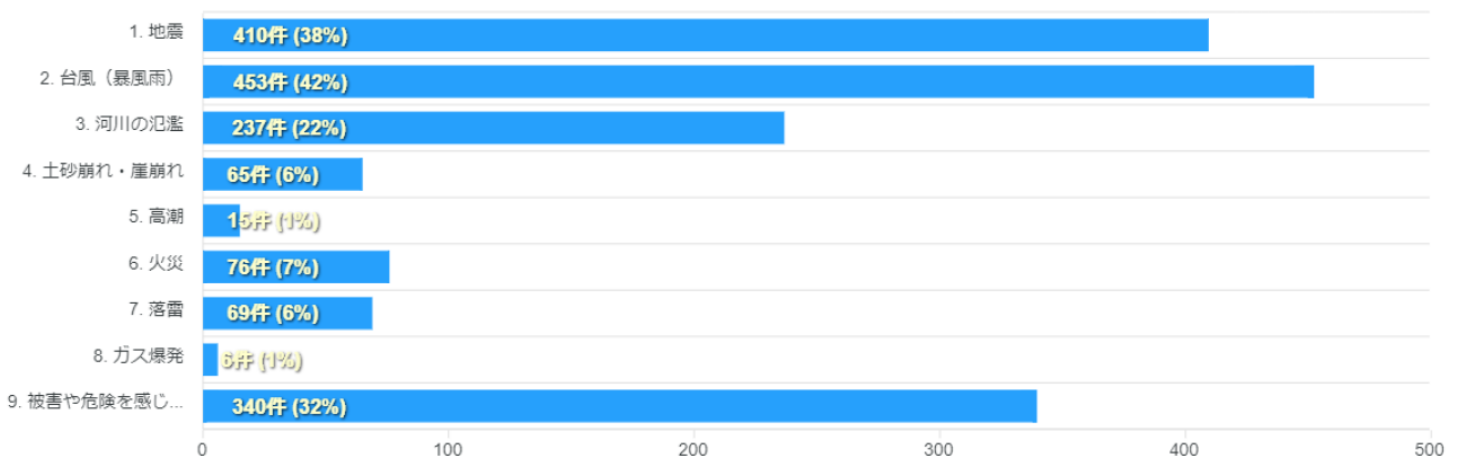
○半数以上の回答者が西条地域であった。

○その他としては、43 件であった。

(内訳)

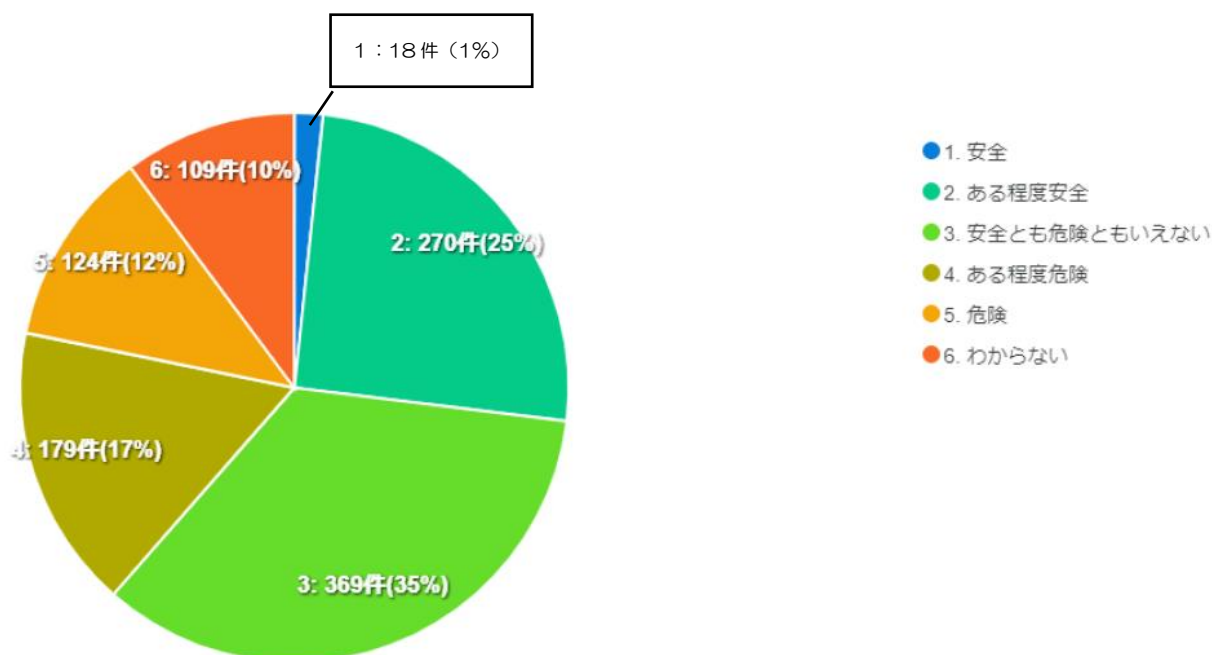
- ・県内の回答者では、今治市（実家が西条市を含む。）5 件、新居浜市 15 件、四国中央市 9 件、松山市（実家が西条市を含む。）4 件、南予 1 件
- ・県外の回答者では、三重県 1 件、千葉県船橋市（実家が西条地域）1 件、神奈川県 2 件、西条市出身で現在は高松市在住 1 件、徳島県在住 2 件
- ・市外 2 件

Q3 あなたは今まで災害によって被害を受けたり、身近に危険を感じたことはありますか。次の中からいくつでもあげてください。



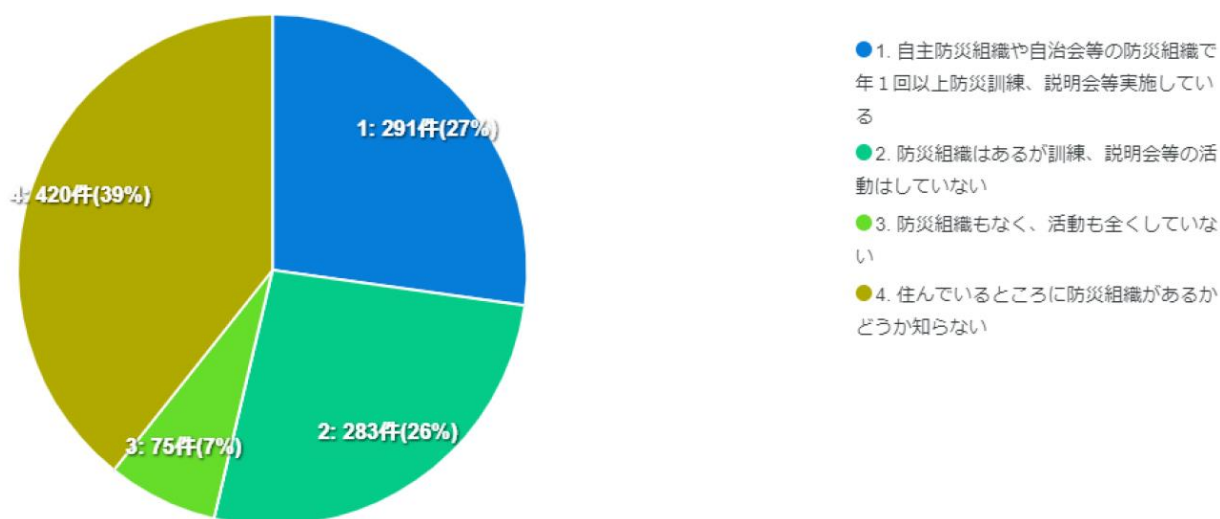
○台風（暴風雨）が一番身近に危険を感じたことがあった一方、被害や危険を感じたことがない方も多い。

Q4 西条市は災害に対して安全と思いますか。次の中から 1 つあげてください。



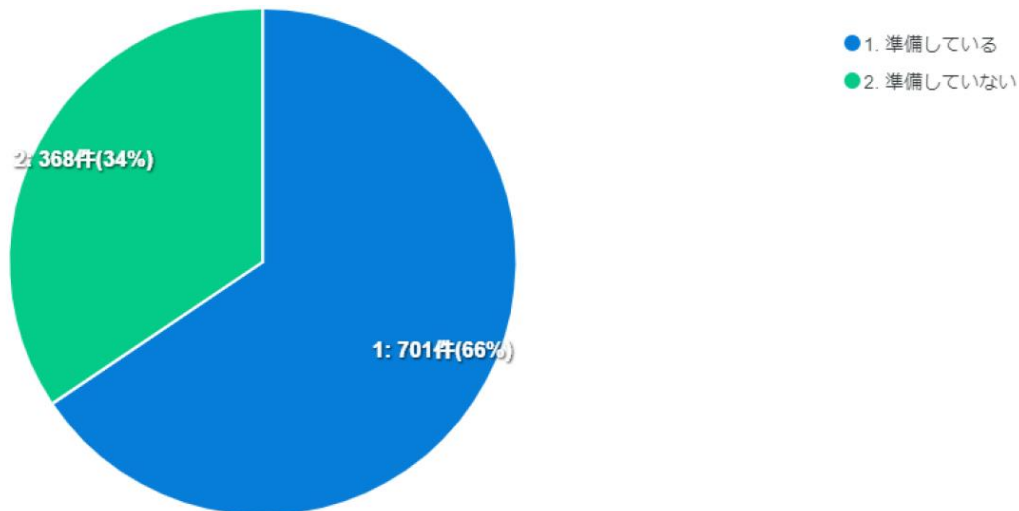
○「安全」及び「ある程度安全」の回答が 27%を占めているが、「ある程度危険」及び「危険」が 29%と同程度の回答であった。市民の 3 割が何かしらの危険を感じている。

Q5 あなたがお住いの地域は防災活動に取り組んでいますか。次の中から 1 つあげてください。



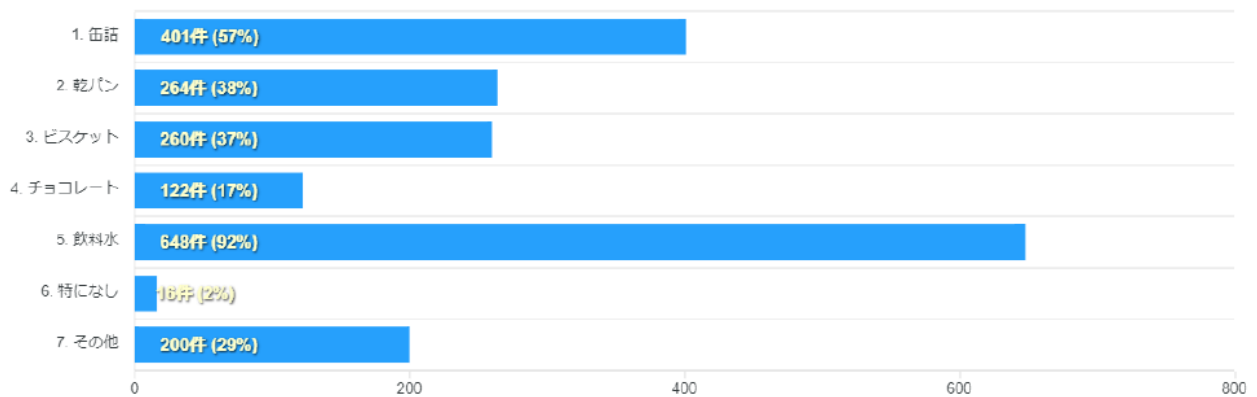
○「自主防災組織や自治会等の防災組織で年 1 回以上防災訓練、説明会等実施している」の回答が 27%、「防災組織はあるが訓練、説明会等の活動はしていない」の回答が 26%とほぼ同率の回答であった。「住んでいるところに防災組織があるかどうか知らない」の回答が、39%を占めている。

Q6 災害に備えて備蓄物資を準備していますか。次の中から 1 つあげてください。



○「準備している」の回答が 66%であった。

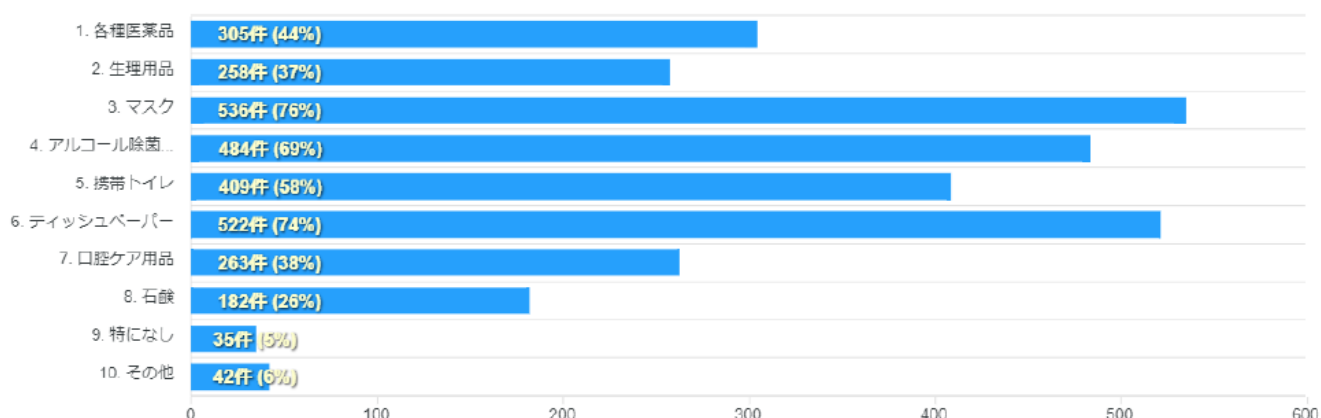
Q7-1 準備している「非常食など」を全てチェックしてください。



○準備しているものとしては「飲料水」、次いで「缶詰」の回答が多かった。

○その他としては、「米・アルファ米（真空パックのごはん、無洗米、おかゆ）」、「レトルト食品（カレー）」、「長期保存用パン」、「カップ麺（パスタ）」、「ようかん」、「インスタント（味噌汁、スープ）」、「塩」、「ゼリー」、「シリアル」、「ふりかけ」、「水で戻せる食品（乾燥マッシュポテト）」、「菓子類（飴）」、「ミルク」、「冷凍もち（切り餅）」、「野菜ジュース」、「ビタミンやタンパク質などを水で溶かして飲む補助食品」、「乾燥肉」、「乾物（海苔・干しシイタケ・乾麺）」、「嗜好品（コーヒー）」、「経口補水液」、「犬の餌（ペット用非常食）」、「冷凍食品のローリングストック」、「家庭菜園で収穫できる食材の活用」など多数の回答があった。

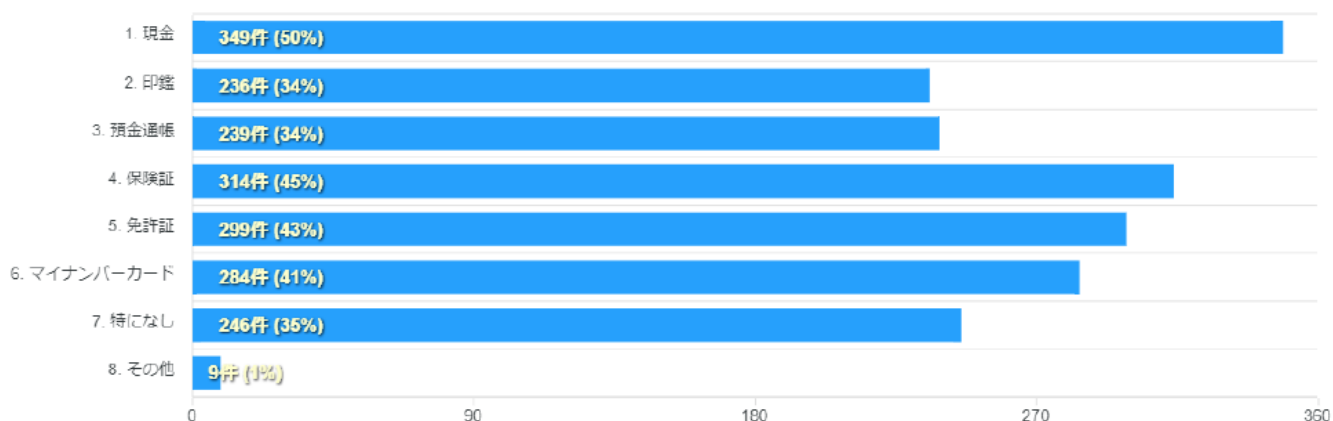
Q7-2 準備している「救急・衛生用品」を全てチェックしてください。



○準備しているものとしては、「マスク」、「アルコール除菌シート」、「ティッシュペーパー」の回答が多かった。

○その他としては、「ドライシャンプー」、「オールインワン美容液」、「コンタクトレンズ」、「トイレットペーパー」、「体拭き用品（冷却シート）」、「手袋」、「歯磨き粉（液体）・歯ブラシ」、「ごみ袋（消臭ポリ袋、黒ポリ袋）」、「ラップフィルム」、「ビタミン剤」、「絆創膏」、「ウェットティッシュ（ウェットタオル）」、「蓋付きバケツの中に簡易トイレセット（大きいナイロン袋、トイレ凝固剤）」、「ペット用トイレシート（人間用に使用）」、「ロープ」、「携帯スリッパ」、「給水用バッグ」、「紙パンツ」、「アルコールスプレー」、「保温シート」、「防災バッグ」、「圧縮タオル」、「ピンセット」、「子供用手口ふき」、「テント（寝袋）」、「内服薬」、「非常用トイレセット」、「包帯」、「浄水器」などの回答があった。

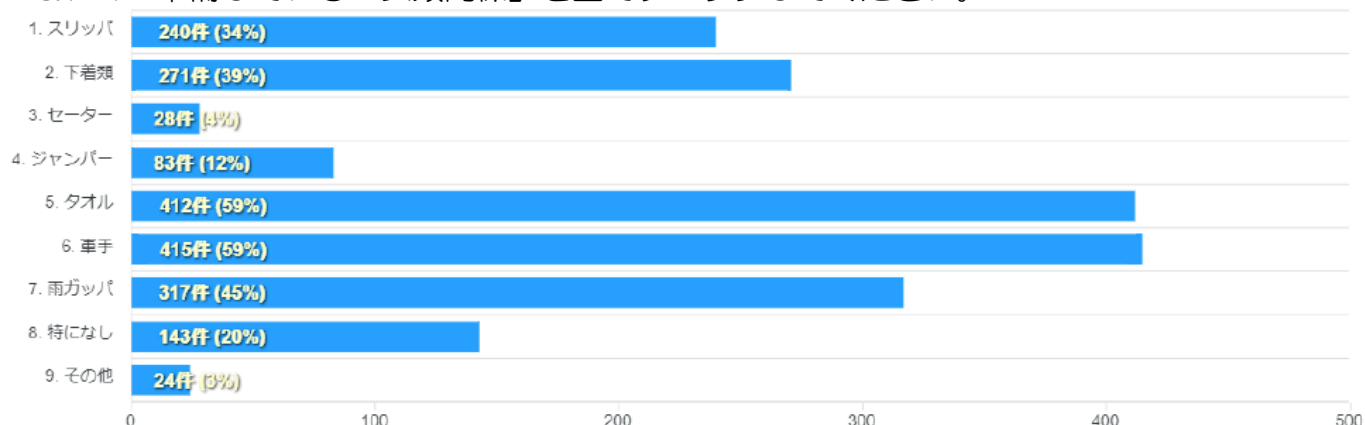
Q7-3 準備している「貴重品」を全てチェックしてください。



○準備しているものとしては、「現金」の回答が多かった。

○その他としては、「登記簿（土地建物の権利証）」、「保険証券」、「お薬手帳」、「子供の保険証コピー」、「マイナンバーカードコピー」、「通帳のコピー」の回答があった。

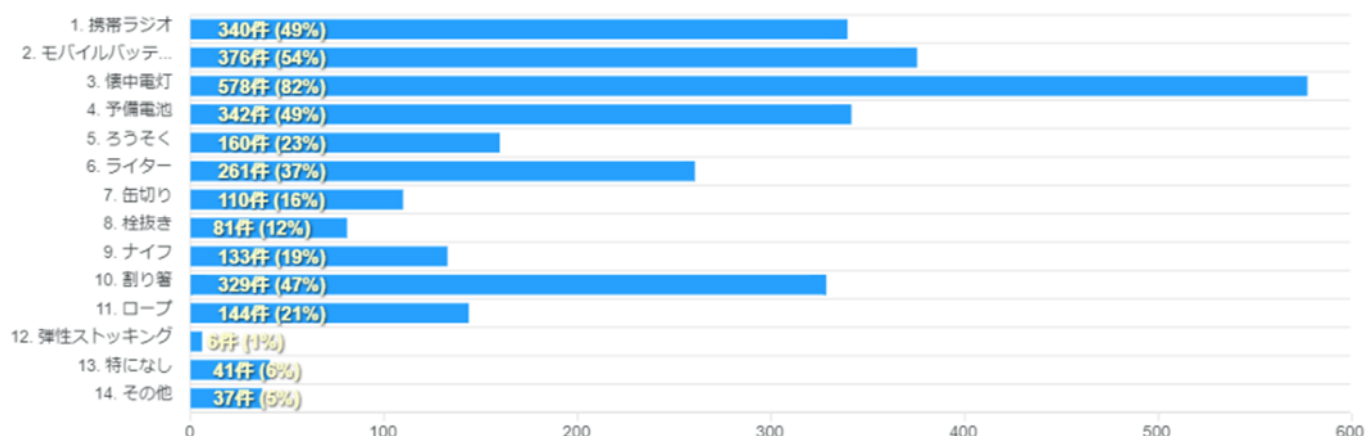
Q7-4 準備している「衣類関係」を全てチェックしてください。



○準備しているものとしては、「軍手」、「タオル」回答が多かった。

○その他としては、「ヘルメット」、「アルミの防災ブランケット（膝掛け）」、「衣類（Tシャツ、短パン、ジャージの上下）」、「スニーカー（安全靴）」、「帽子、靴下」、「子供がこども園で作ったタオル頭巾」の回答があった。

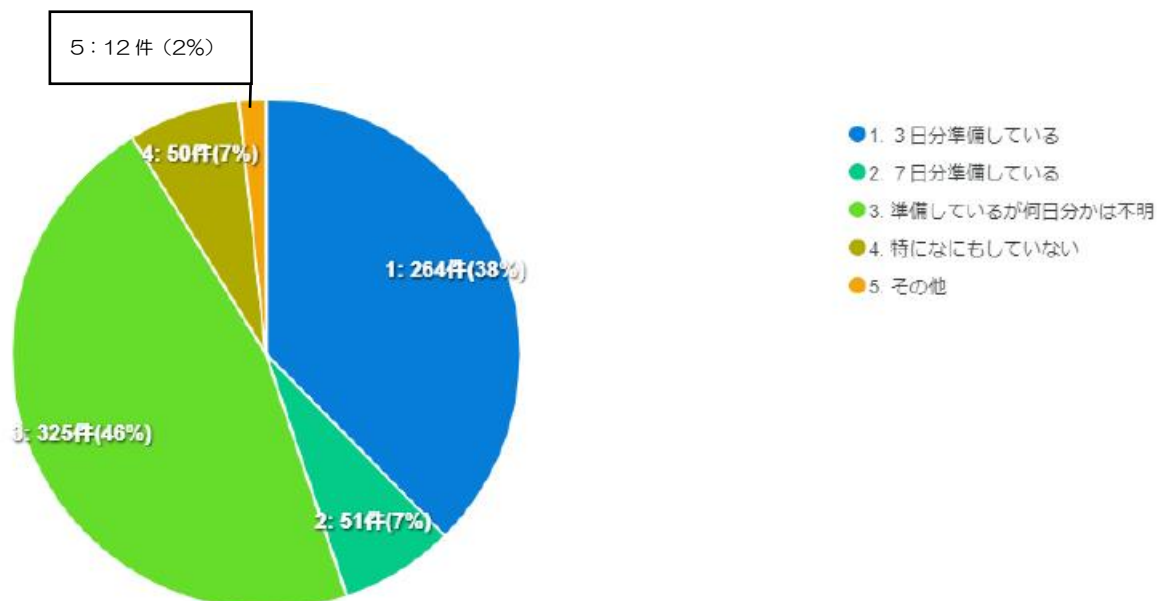
Q7-5 準備している「日用品」を全てチェックしてください。



○準備しているものとしては、「懐中電灯」が多かった。

○その他としては、「ラップフィルム、アルミホイル」、「紙コップ・紙皿（食器類）」、「飯ごう」、「給水袋」、「筆記用具（テープ類・マジック類、ノート類）」、「ガムテープ」、「携帯ソーラーパネル」、「ストロー・スプーン」、「ガスボンベ・ガスコンロ（卓上コンロ）」、「毛布」、「笛（防災笛）」、「使い捨てカイロ」、「ブルーシート 10m」、「踏み抜き防止インソール」、「消火器」、「携帯浄水器」、「ランタン」、「ヘッドランプ」、「発電機」、「マルチツール（折りたたみナイフ、カッターナイフ）」などの回答があった。

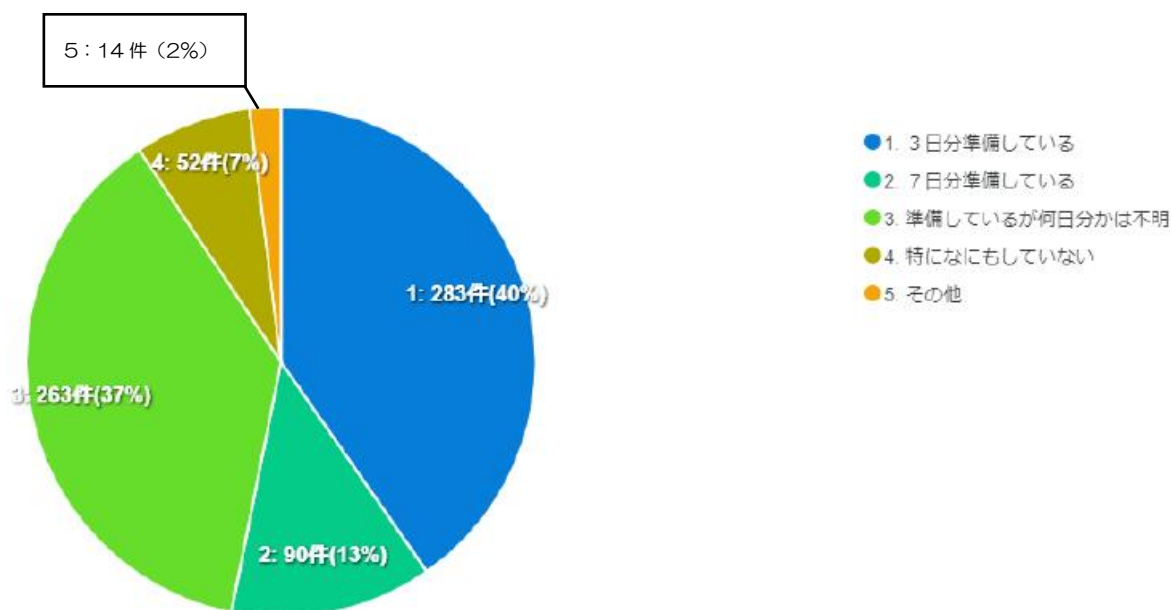
Q7-6 災害に備えて何日分の「食料」を準備していますか。次の中から1つあげてください。※非常用持出袋分を含む。



○回答の約50%に当たる方が、「準備しているが何日分かは不明」であった。

○その他としては、「1日分」、「2日分」、「10日以上」、「2週間」、「数ヶ月分」との回答があった。また、「米農家なので、米、野菜あり。」「ローリングストックしている」、「家族4人分となるとかなりの備蓄が必要なため、2日分くらいしかない」との回答もあった。

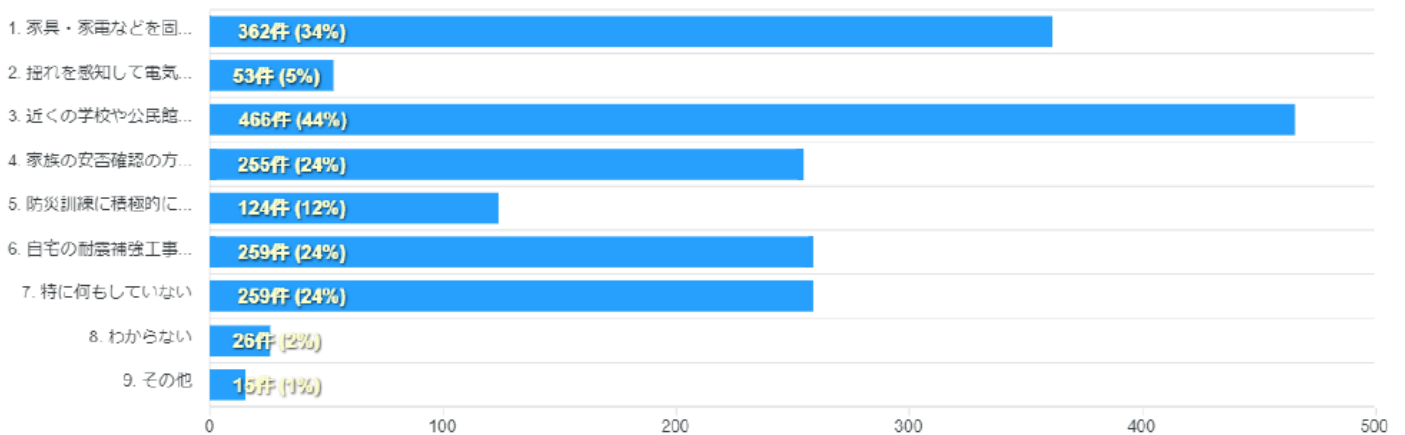
Q7-7 災害に備えて何日分の「飲料水」を準備していますか。次の中から1つあげてください。※非常用持出袋を含む。 ※一人当たり1日3リットルを目安



○飲料水については約 40%の方が「3 日分準備している」と回答があったが、「準備しているが何日分かは不明」との回答が 38%を占めた。

○その他としては、「1 日分」、「1～2 日分くらい」、「14 日分」、「かなりの量をストック」、「打ち抜き井戸」、「1 人×1 日分。家族全員分はない。」「1 日 1 人 2 リッターで 2 週間」、「100L 近くはある」、「家族 4 人分となると場所を要するため、1 日分しか備蓄できてない」、「500 ミリリットル 3 本」、「1 日分準備、他は直近および周辺の飲用水源地を把握し、20リットルポリタンクを準備している。」「備蓄ではないが、飲み物を冷蔵庫に多めに保管している」、「ローリングストックしている」と回答があった。

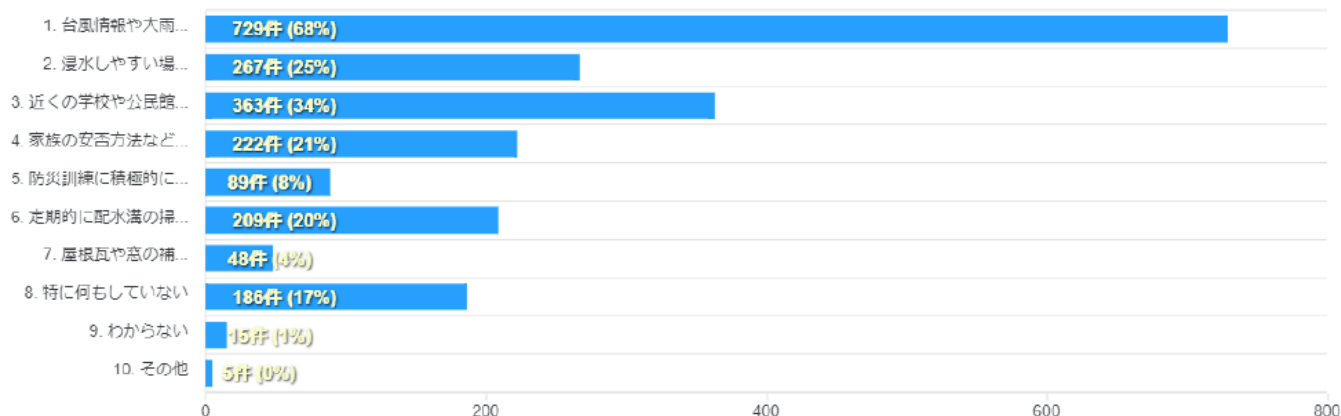
Q8 「大地震」に備えて、どのような対策をとっていますか。次の中からいくつでもあげてください。



○「近くの学校や公民館などの避難場所・避難経路を決めている」の回答が多かった。

○その他としては、「水など用意している」、「自宅避難を前提として備えにつとめている」、「二階建て住宅なので近くに高い建築物がないのでなるべく避難する事なく家にいる事にしている。(高齢者)」、「家族で集合場所を決めている」、「寝る部屋には高いものを置かない。」、「収納の扉にストッパーをつける」、「枕元に運動靴(スリッパ)を置いている」、「車の中で車中泊できるように準備している」、「災害ボランティアに参加し、必要な対応等を家族で共有」、「自宅に太陽光発電および蓄電池を設置した」、「耐震性の高い住居に住んでいる(耐震性のある家づくり)」、「屋根瓦を軽量なものに変更」、「防災のスキルUP を松山市ほかで受けている」と回答があった。

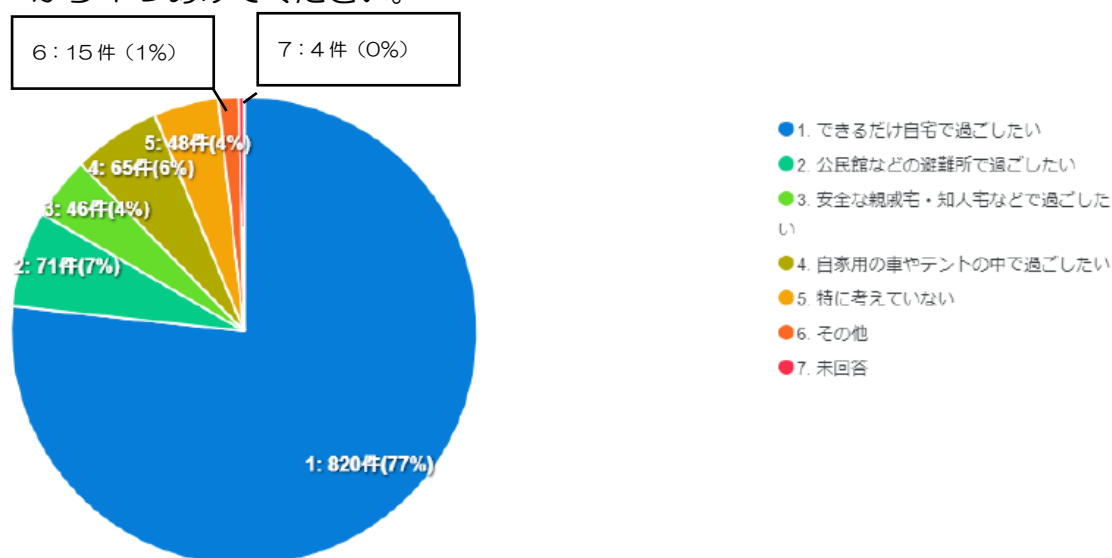
Q9 「台風や大雨」に備えて、どのような対策をとっていますか。次の中からいくつでもあげてください。



○回答としては、「台風情報や大雨情報を意識的に収集するようにしている」が多かった。

○その他としては、「窓ガラスは補強シートを貼っている」、「カーポートが飛ばないように鎖でつなぐ」、「土嚢袋に砂を入れて 365 日保管して使用している」、「飛来物を想定し、家の中では窓から離れて過ごす。カーテンをする、等を家族で話し合う」と回答があった。

Q10 大地震が起きたときの避難生活について、どのように考えていますか。次の中から 1 つあげてください。



○「できるだけ自宅で過ごしたい」との回答が一番多かった。

○その他としては、「安心して睡眠できる場所が良いと考えている」、「とりあえずは津波から逃げきる」、「実家に帰省する」、「被災状況により考える」、「大型犬を飼育しているので、自宅で過ごすしかないと諦めている」、「安全なホテルや旅館などで、プライバシーを守りながら避難したい」、「ペットがいるので、自宅で過ごしたいが、その場合も食料などの支給はあるのか心配。ペット可の避難所が欲しい。ペットに優しい環境を整えて欲しい。」、「大型テント準備している」、「仕事場」

などの回答があった。

Q 1 1 自然災害が起こった時に、その被害を少なくするための対応には

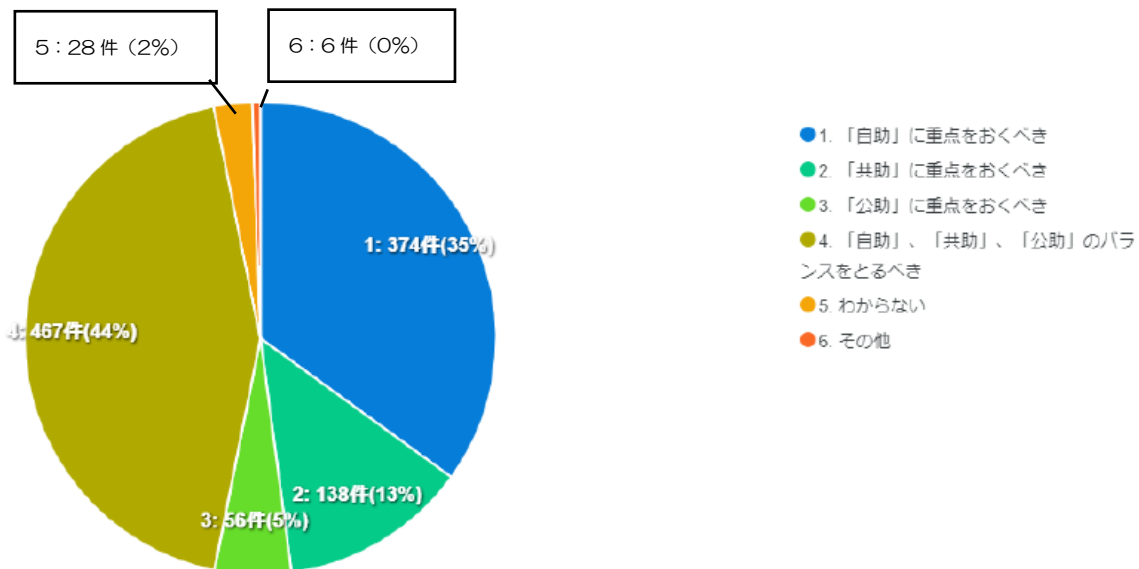
「自助」…自分の身は自分で守ること

「共助」…地域や身近にいる人どうしが助け合うこと

「公助」…国や県、市が行う救助・援助・支援

という考えがあります。

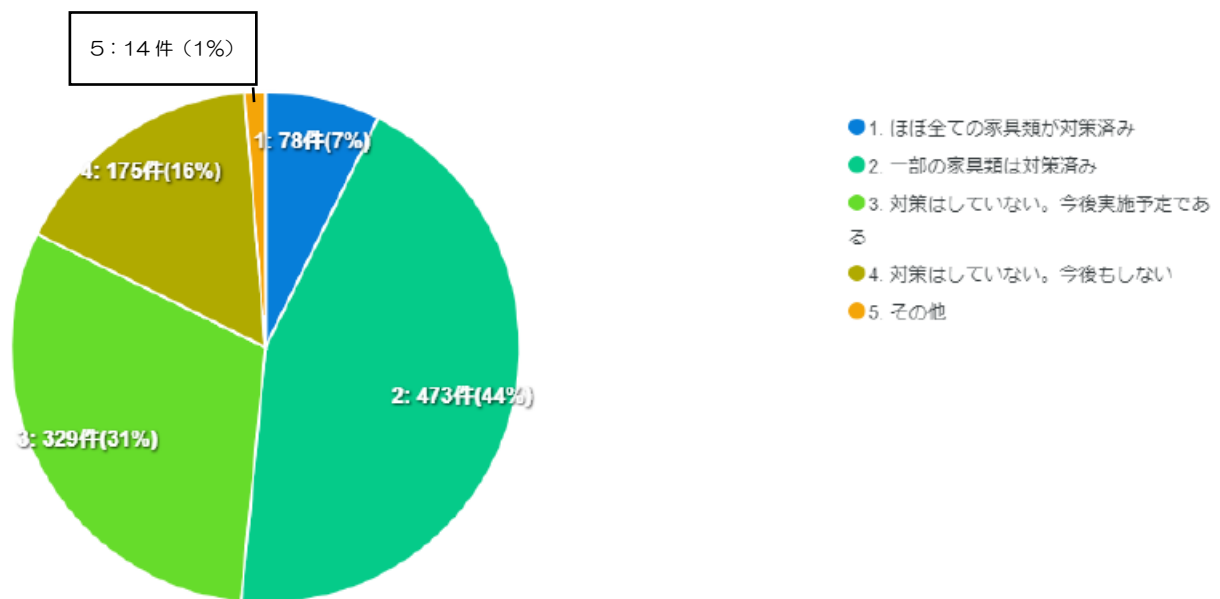
あなたは、自然災害が起こった時、被害を少なくするために「自助」、「共助」、「公助」のどれに重点をおくべきと考えますか。次の中から 1 つあげてください。



○回答としては、「「自助」、「共助」、「公助」のバランスをとるべき」が 1 番多く、「自助」についても 35%の回答があった。

○その他としては、「年齢や環境によってかわってくると思う」、「自助に重点をおき、自分の身を守れてから、共助すべき」、「基本は「自助」だと思っているが、高齢者だけの世帯では「共助、公助」が重要」、「自助ではあるが、まず家族。共助と公助を当てにしてはならない。」、「基本は自助と公助。共助はどこまで踏み込んで対応するか、なかなか難しいと思う。人によって温度差があるため、自分にゆとりがないと他人のことは考えられない。」などの回答があった。

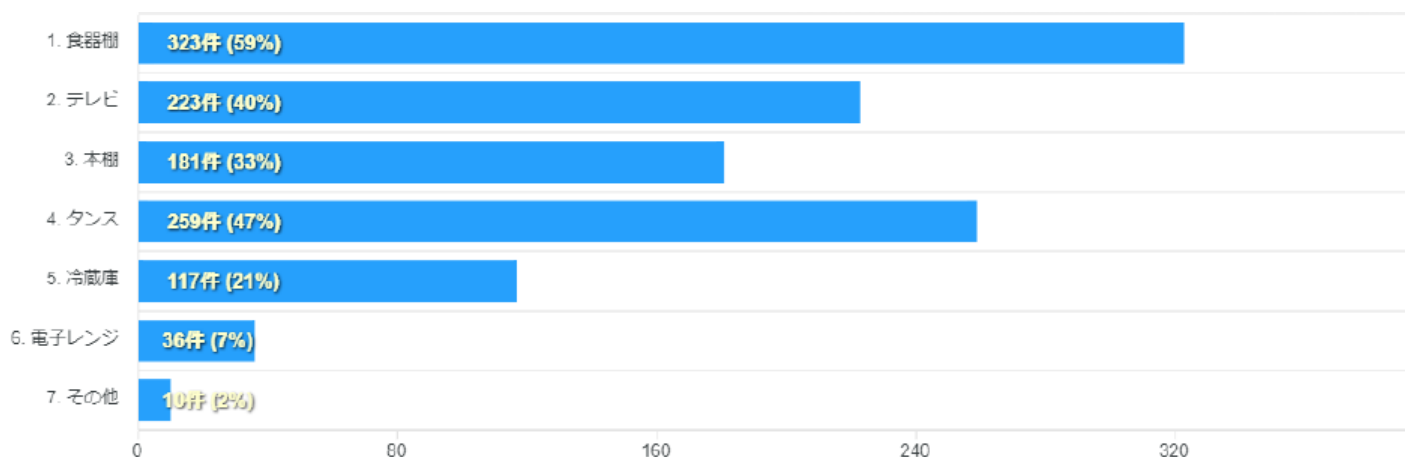
Q 1 2 家具類の転倒防止対策を行っていますか。次の中から 1 つあげてください。



○「ほぼ全ての家具類が対策済み」、「一部の家具類は対策済み」との回答が51%であったが、「対策はしていない。今後もしない」の回答が16%あった。

○その他としては、「寝室には家具を置かないようにしている」、「転倒防止はしていないがタンス等が就寝中に倒れて来ない位置に配置している」、「背の高い家具は買わない、置かない」、「転倒防止対策はしていないが、家具をなるべく積み重ねないようにしている。また、新しく設置した家具の下には新聞紙を敷いている。」と回答があった。

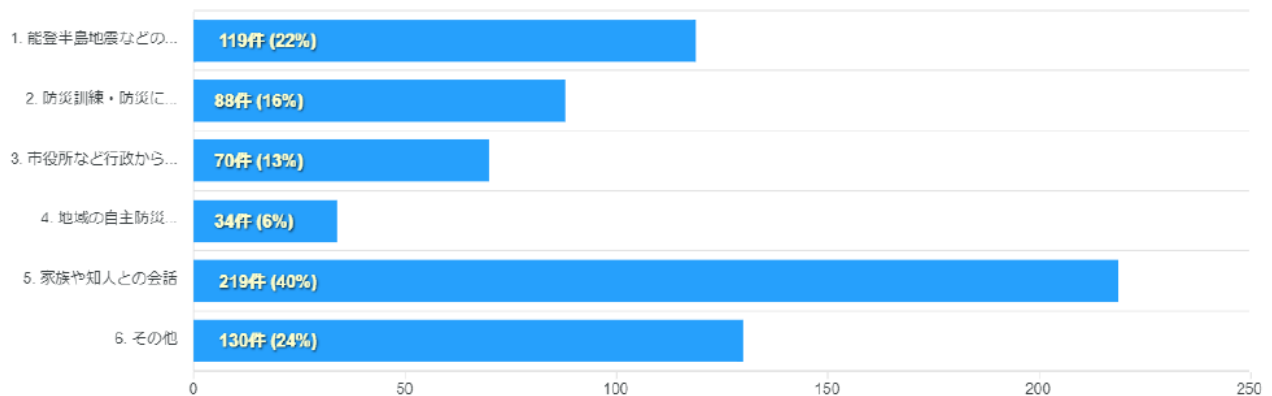
Q13-1 対策をしている家具類はどれですか。次の中からいくつでもあげてください。



○回答としては、食器棚の対策が一番多かった。

○その他としては、「ペットゲージ」、「引出し」、「ピアノ」、「布団棚」、「ロッカー」、「洗面所の棚」、「靴箱」、「重量のあるものは、固定しているつもり。」と回答があった。

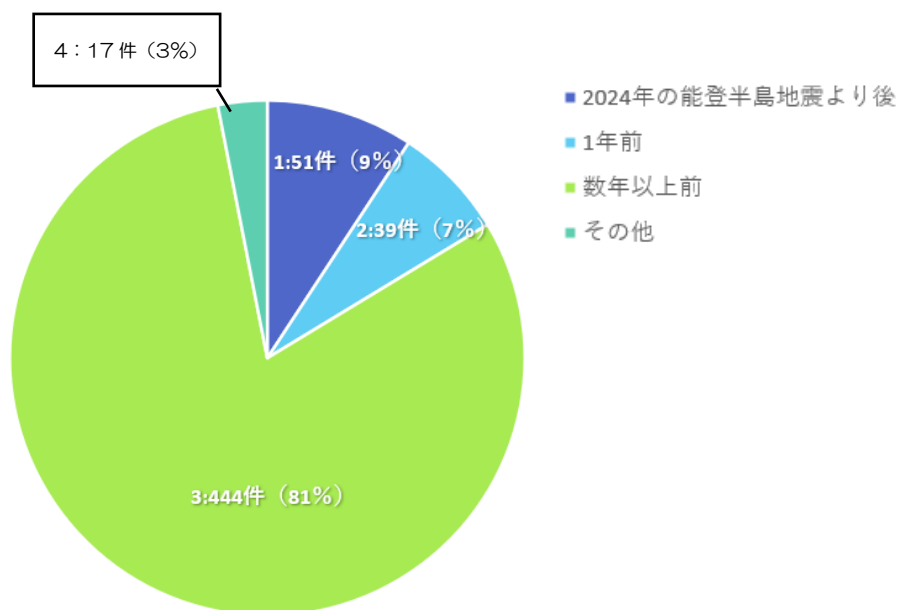
Q13-2 実施したキッカケは何ですか。次の中からいくつでもあげてください。



○実施したキッカケとしては「家族や知人との会話」の回答が多かった。

○その他としては、「東日本大震災の経験、発生から（過去の大地震の経験（阪神淡路大震災・鳥取西部地震・芸予地震・熊本地震））」、「過去に大地震を体験した人の話を聞いて」、「最近の台風など自然災害の教訓から」、「小さい子供（子どもが産まれて）がいるから日常的に何かあったときに守れるように」、「YouTube、SNS 等の情報」、「新聞、テレビ番組を見て」、「今回の南海トラフ地震臨時情報を聞いて」、「もしもの時と思って」、「防災士会での研修を通して（自分が防災士）」、「以前からの習慣（誰の影響でもなく自主的に取り組んだ）」、「自己研鑽（職業柄）」、「家具屋さんにしたほうが良いと言われた」、「子供の学校での授業（防災の宿題）」、「防災の本」、「東日本大震災のボランティア活動を通して」、「中越地震以降、勤め先から防災グッズを配布された（会社の指導、会社での啓蒙）」などの回答があった。

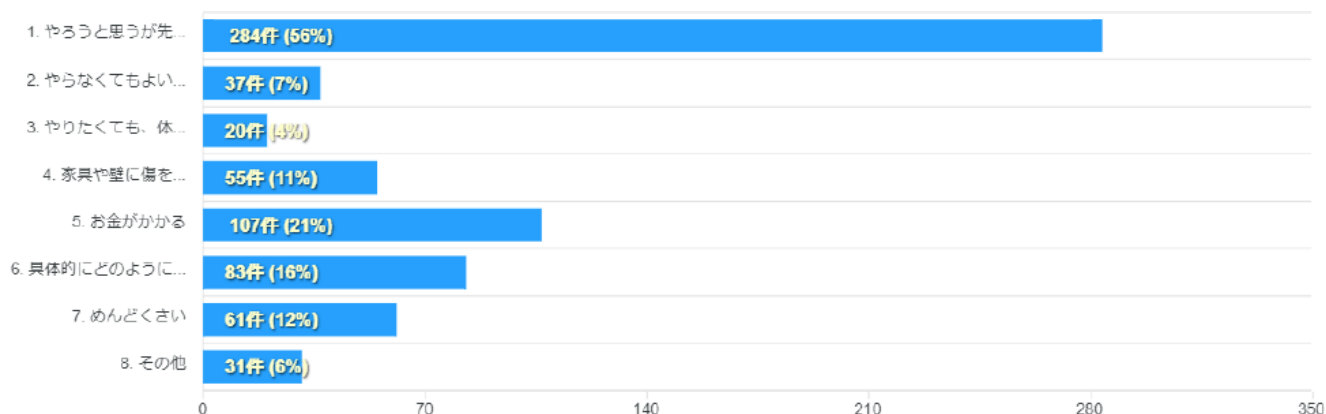
Q13-3 いつ頃に実施されましたか。次の中から1つあげてください。



○「数年以上前」の回答が81%を占めている

○その他としては、「平成16年の大雨」、「東日本大震災後、乳児を抱えていたので、心配になって」、「最近（巨大地震注意）」、「数年前から少しずつ実施していたが、直近の地震で再度実施」、「阪神淡路大震災や芸予地震以降」、「家族で震災について会議したとき」などの回答があった。

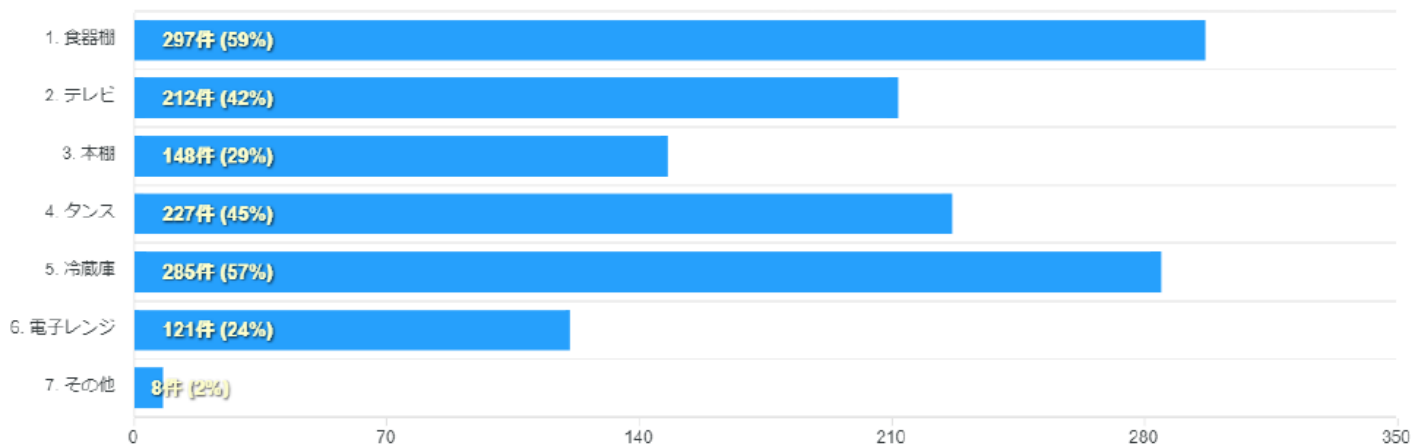
Q14-1 家具類の転倒防止対策をしていない理由は何ですか。次の中からいくつでもあげてください。



○「やろうと思うが先延ばしになっている」の回答が、56%を占めている。

○その他としては、「背の高い家具類が少ないから大丈夫かと思ってしまっている」、「通路を塞ぐ大きい家具を置いていない」、「賃貸物件なので十分な耐震対策がしづらい（壁などに固定できない）ため、なるべく高さが低い家具で揃えている（退去時の現況復旧を考慮すると留め具の対策がやりづらい）」、「賃貸物件なのでどうしたらいいかわからない」、「設置することによって常に地震を連想してしまうし、南海トラフの揺れがそれで防止できるか疑問」、「あまり高い家具がないので今までしてなかったが、やはりある程度は策を講じる予定」、「家具等の景観に合うデザインの補強器具がない」、「倒れて来て危ない可能性がある家具は、納戸に集約しているため転倒しても大丈夫だから」、「古い家のため天井が転倒防止対策できない」、「家具を持ち上げられない、突っ張り棒などが設置できる家具ではない。テレビだけ」、「倒れるものをまず買わない。倒れてもいい場所に置いている」などの回答があった。

Q14-2 今後、家具類の転倒防止対策をしたいものは何ですか。次の中からいくつでもあげてください。



○「食器棚」「冷蔵庫」の回答率が50%を超えていた。

○その他としては、「屋根瓦が1番心配」、「スピーカー」、「棚」、「食洗器」、「ピアノ」、「倒れて危険な家具が無い」の回答があった。

Q15 ご家庭や地域で工夫されている防災対策など、防災に関してご意見などがございましたらご記入ください。

※ご家庭や地域で工夫されている防災対策を一部抜粋

【自宅の設備など】

- ・ソーラーパネル設置の際にバッテリーも装備した（一階天井そば）。
- ・電気も自給できるようにガソリン式大型発電機、ソーラー対応ポータブル電源も準備している。
- ・浸水対策で基礎を少し上げた。
- ・災害時にも使えるウォーターサーバーを設置し、水はローリングストックとして毎回少し多めに備蓄している。予備電池はこまめにチェックし、いざと言う時に電池切れにならないようにしている。太陽光や手動で充電できる機器を購入して備蓄している。
- ・長期停電のことを考え、薪と外でご飯を炊けるスペースを準備している。

【備蓄関係】

- ・一人一人の袋を用意し、子どもが県外に越した際にも緊急持ち出し袋を持たせた。
- ・防災品を自室と車に保管している。
- ・ポーチに一時災害に対応できる防災グッズを入れて、持ち歩いている。
- ・キャンプに使える道具は、防災にも使えると思い少しずつ集めている。過去に袋を使った防災クッキングワークショップに参加し、おすすめされたことをやってみた。十分な対策ができているとは思えないが、自分でできることを増やすのは大事と思っている。
- ・防災グッズ等をキャリー付バッグに詰めて玄関に準備中。
- ・2階にヘルメットと綱を置いている。

- ・懐中電灯は家のあちこちに常備してある。就寝中でも貴重品はすぐ持ち出せるようにいつも鞆に入れてある。
- ・防災用品は2階に準備。1階は地震で潰れるリスクがあるから。
- ・損壊した部分を補うブルーシートを準備。
- ・備蓄している食料は、期限が来たら消費してローテーションするよう心掛けている。
- ・室内で料理が出来なくなった場合、外で出来るようにしている。仕事場には3日分の避難用品を置き、食べ物・飲み物はデスクの中に入れている。
- ・水害を考慮し、貴重品（家の権利書や保険証書、預金通帳 等）は2階に保管している。

【自宅の中での工夫】

- ・家の中の物を減らす。ドアのそばに荷物や物をおかない。入浴後の湯は抜かず水を足している、何もなければ次の朝洗濯と掃除に使用している。
- ・タンスの上に物を置かない、全く使わない物は処分する、といったことを心がけている。
- ・災害を最小にするために、自分で出来る対策をしたいと心掛け家具の配置を変えた。

【地域内での取り組み】

- ・地域で防災の講習を受けている。
- ・防災士の資格を取得して知識を深めている。また、防災士会にも入会して地域のために貢献できるように努めている。
- ・非常時、一人住まいの高齢者への声掛け、安否確認をする人を決めている。
- ・昨年、防災士の資格を取り、少しでも防災に関する知識の高揚や家族への啓蒙に努めている。また、地域の防災士会にも入会して地域の防災活動が活性化するように取り組んでいる。

【シミュレーションなど】

- ・地震が起きた際の、咄嗟の行動について話し合う。（逃げ場所、避難通路確保など）
- ・地震が起きた時と、その他災害が起きた時の避難経路、避難場所を変えている。毎年一回家族で話し合って情報共有している（緊急連絡先、避難場所の確認、非常用持ち出し袋の確認など）。
- ・まだしていないが、家族で大地震を想定した防災訓練を近々実施予定である。防災リュックや避難場所への経路確認、電気やガスが使用できない時に家庭内での食事やトイレをどうするか実際に体験してみようと思っている。
- ・171番の災害用伝言ダイヤルで毎月1日に家族でシュミレーションしている。
- ・家族の連絡手段（アマチュア無線資格取得と無線機の実装（車両・自宅・携帯））の整備
- ・子供には、「お父さんお母さんは避難所にいるから家には絶対帰らず避難所に行き

なさい」と言っている。

- 避難ルートのマップ書き込みと張り出し（地震のときと、洪水・津波のときの避難経路を変えている）
- 登下校中の発災時は避難所へ避難（帰宅厳禁）の徹底
- 避難所は知人の多いことから小学校のみと指定している。
- 日頃から避難場所の確認（体育館の西、次が公民館等）順番日を決めて自分の居場所を紙に書いて残すことや防災用品の補充等に気を付けている。
- 平時より「ちょっとした災害にあったら？」とシミュレーションをしている。
- 倒壊するブロック塀がある道は、避難路に不適なので、家族で共有。
- まずは自助のために出来るだけの対策を家族で話し合う。